

平成26年度 ニホンジカ外分布状況及び被害状況調査報告(抜粋)

富山森林管理署

1. 調査目的

近年、中部山岳国立公園の高山帯でもニホンジカを目撃情報が増加していることから、昨年度に引き続き、富山県内の高山帯の国有林において自動撮影調査及び被害状況調査を行った。

2. 自動撮影調査

(1)調査箇所

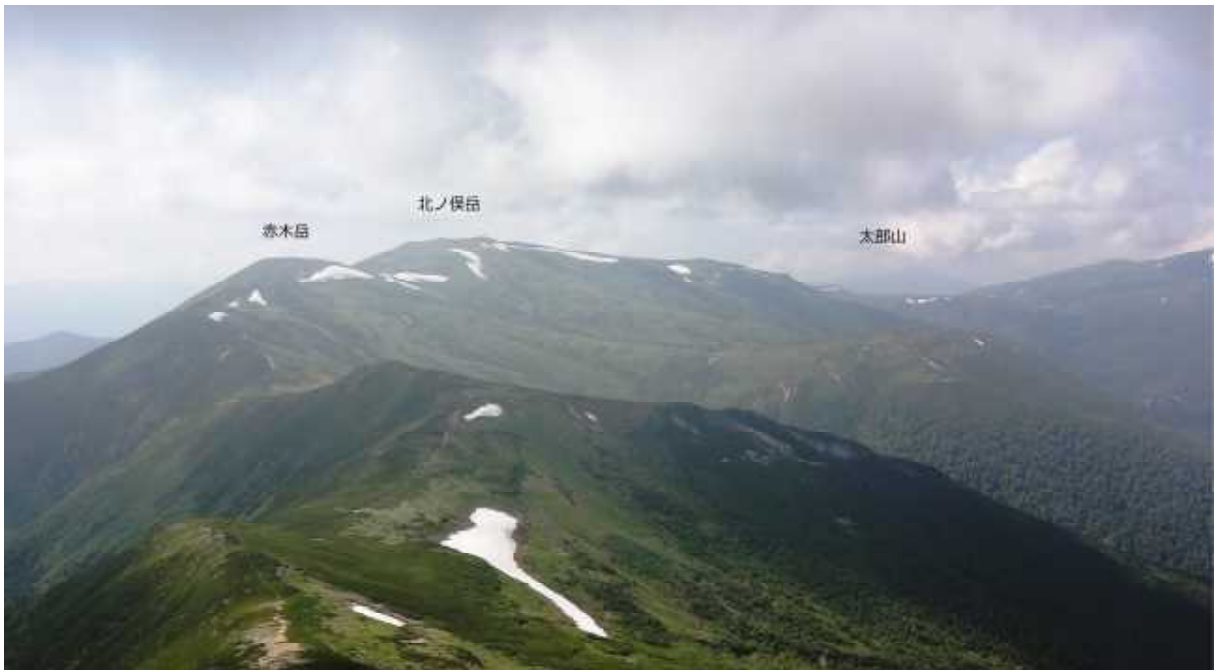
黒部川源流部の三俣山荘付近と立山連峰の龍王岳周辺においてニホンジカを目撃情報があったことから、これらの稜線部に2箇所選定した。

(ア)調査地A：太郎坂(五光岩ベンチ)から黒部五郎岳を経て、三俣山荘間の富山県側登山道沿い(自動撮影カメラ12台)

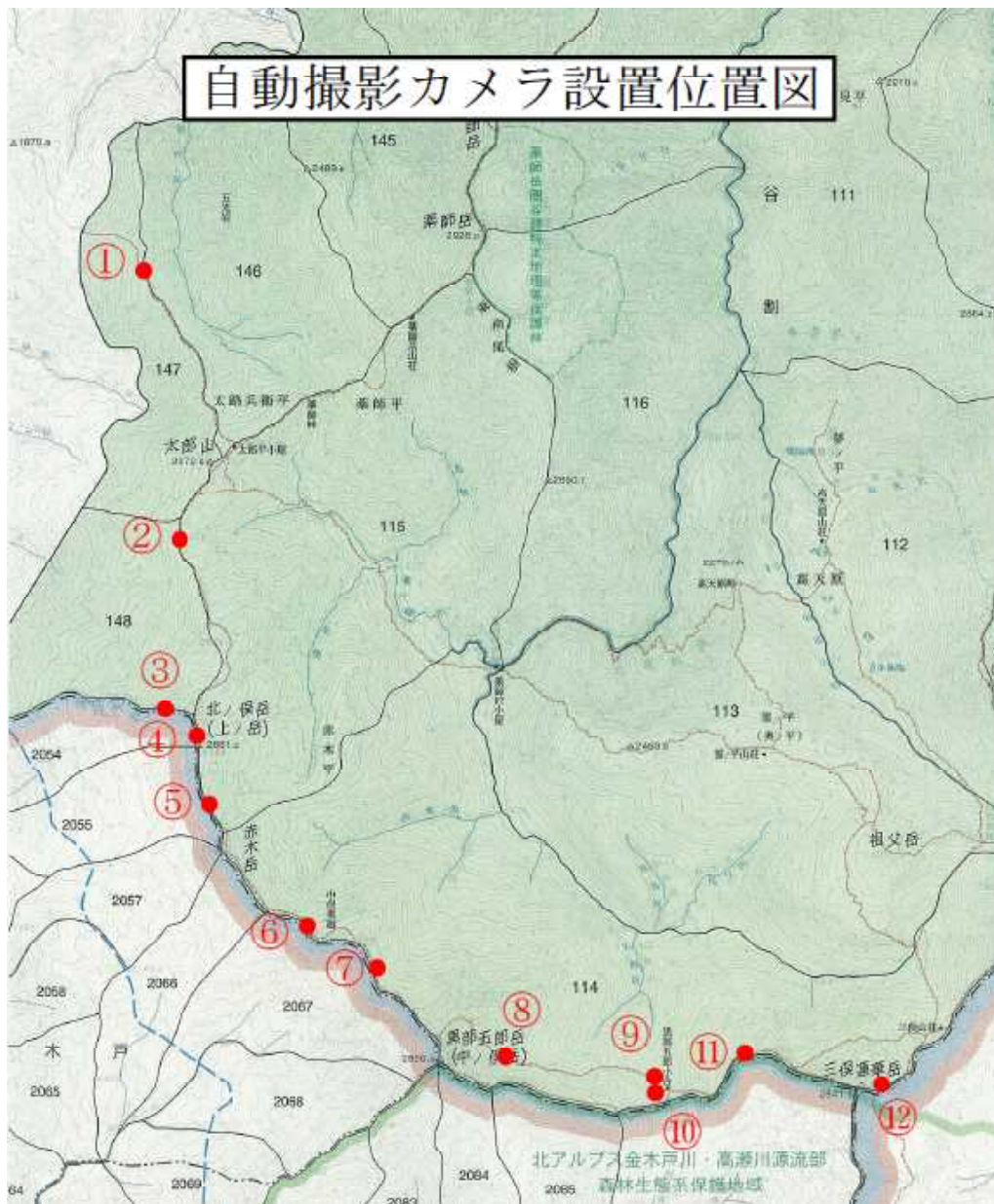
(イ)調査地B：獅子岳から五色ヶ原の登山道沿い(自動撮影カメラ3台)

合計15台の自動撮影カメラを昨年と同様の方法で職員(人頭数8人、20人工)により設置・撤去した。(図 I - 1 ~ 3)(写真 I - 1 ~ 3)

(ア)調査地A



(写真 I - 1) 黒部五郎岳から北ノ俣岳方面を望む



(図 I - 1) カメラ位置図

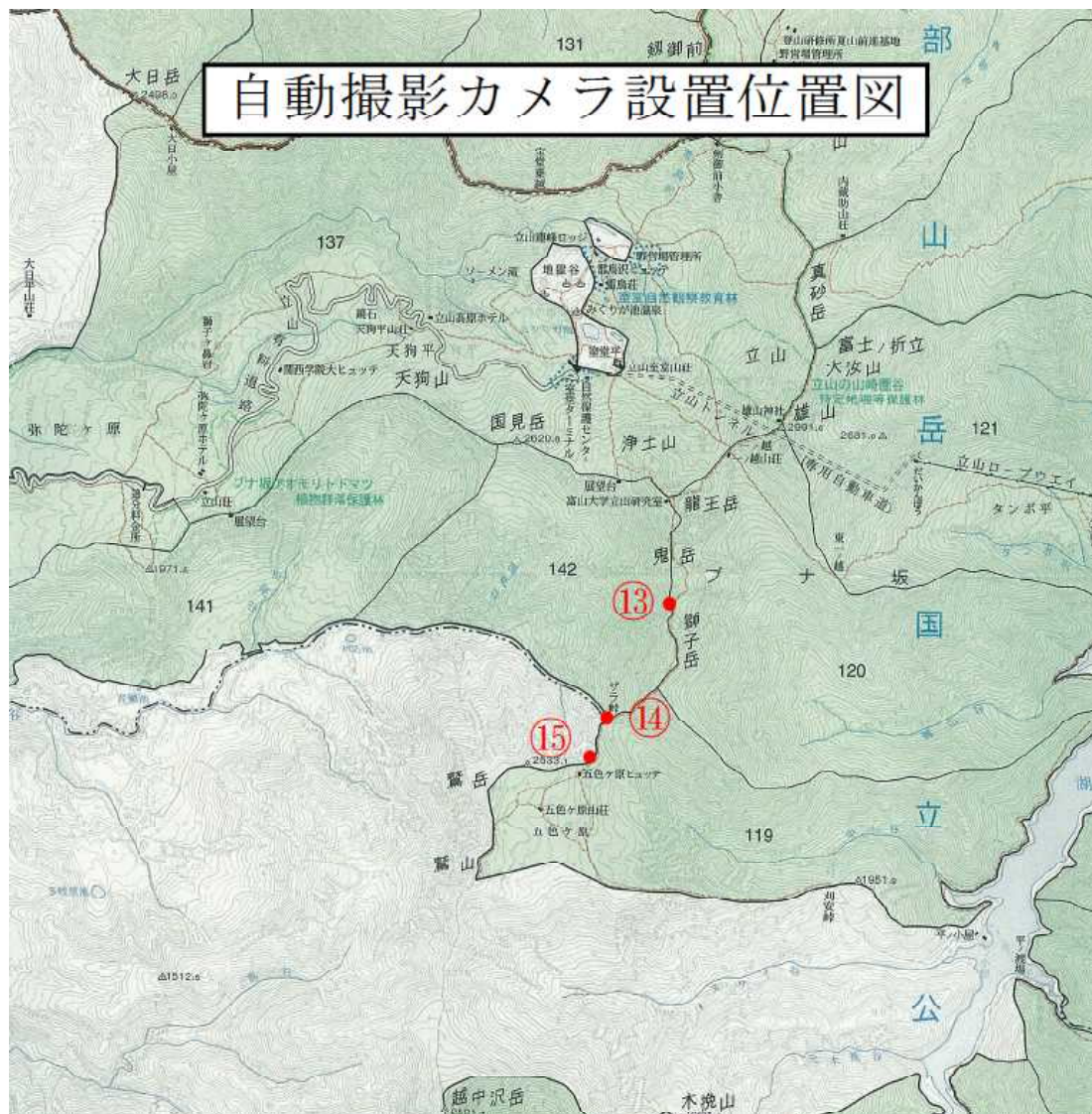
カメラNo.	設置場所	設置期間
No.1	太郎坂(五光岩ベンチ)	7月29日～9月18日 (51日)
No.2	太郎平山～北ノ俣岳	7月30日～9月18日 (50日)
No.3	北ノ俣(神岡新道沿い)	7月30日～9月18日 (50日)
No.4・5	北ノ俣岳～赤木岳	7月30日～9月18日 (50日)
No.6	赤木岳～中俣乗越	7月30日～9月18日 (50日)
No.7	中俣乗越～黒部五郎岳	7月30日～9月18日 (50日)
No.8	黒部五郎カール	7月30日～9月18日 (50日)
No.9・10	黒部五郎小舎付近	7月31日～9月17日 (48日)
No.11・12	黒部五郎小舎～三俣山荘	7月31日～9月17日 (48日)

カメラ設置期間等

(イ) 調査地B



(写真 I - 2) 越中沢岳より立山方面を望む



(図 I - 2) カメラ位置図

No.13	獅子岳付近	8月7日～9月30日 (54日)
No.14	ザラ峠	8月7日～9月30日 (54日)
No.15	五色ヶ原	8月7日～9月30日 (54日)

カメラ設置期間等

(2)調査結果

(ア)調査地A

①ニホンジカについて

今回設置した自動撮影カメラ16台のうち、北ノ俣岳から赤木岳の間に設置したカメラ1台 (No.5) に、3歳のオスジカが撮影された。(写真 I - 6)

☆カメラNo.5

設置位置: 標高2,570m 赤木岳から稜線沿いに北北西へ250m付近
(黒部谷割国有林115林班イ小班)

撮影枚数: 1枚



(写真 I - 6) 3歳のオスジカ

②その他の動物について

カメラの稼働日数延べ593日間の調査で、5科5種の哺乳類が撮影された。哺乳類ではキツネが最も多く47枚だった。鳥類ではホシガラスの1枚だった。

◎キツネ



◎ツキノワグマ



◎ホシガラス



(イ)調査地B

①ニホンジカについて

ニホンジカは撮影されなかった。

②その他の動物について

延べ192日間の調査で、4科4種の哺乳類が撮影された。キツネの撮影が最も多く7枚で、次いでツキノワグマが4枚撮影された。その他にもテンとノウサギが撮影された。

◎テン



◎ノウサギ



(3) 自動撮影調査結果一覧

撮影された全ての動物の調査結果は以下のとおり。(表 I - 3 ~ 5)

自動撮影調査結果一覧表

◇調査地A (自動撮影カメラ12台)

No.	科名	調査月 (稼働日数)	7月~9月 (593)	
		種名		
1	シカ科	ニホンジカ	1	1
2	イタチ科	テン	1	1
3	イヌ科	キツネ	47	44
4	クマ科	ツキノワグマ	1	1
5	ウサギ科	ノウサギ	4	4
		判別不能哺乳類	8	8
		哺乳類計	62	59
1	カラス科	ホシガラス	1	1
		鳥類計	1	1
		登山者	22094	
		カメラ設置・撤去者	146	
		その他	4452	
		総撮影枚数	26755	
		哺乳類確認種数	5	
		鳥類確認種数	1	

※右下太文字は「5分以内に連続撮影された場合は1カウント」とした場合の数

(表 I - 3)

自動撮影調査結果一覧表

◇調査地B (自動撮影カメラ3台)

No.	科名	調査月 (稼働日数)	8月~9月 (162)	
		種名		
1	イタチ科	テン	2	2
2	イヌ科	キツネ	7	7
3	クマ科	ツキノワグマ	4	2
4	ウサギ科	ノウサギ	1	1
		判別不能哺乳類	5	3
		哺乳類計	14	12
		登山者	2642	
		カメラ設置・撤去者	33	
		その他	11241	
		総撮影枚数	13930	
		哺乳類確認種数	4	

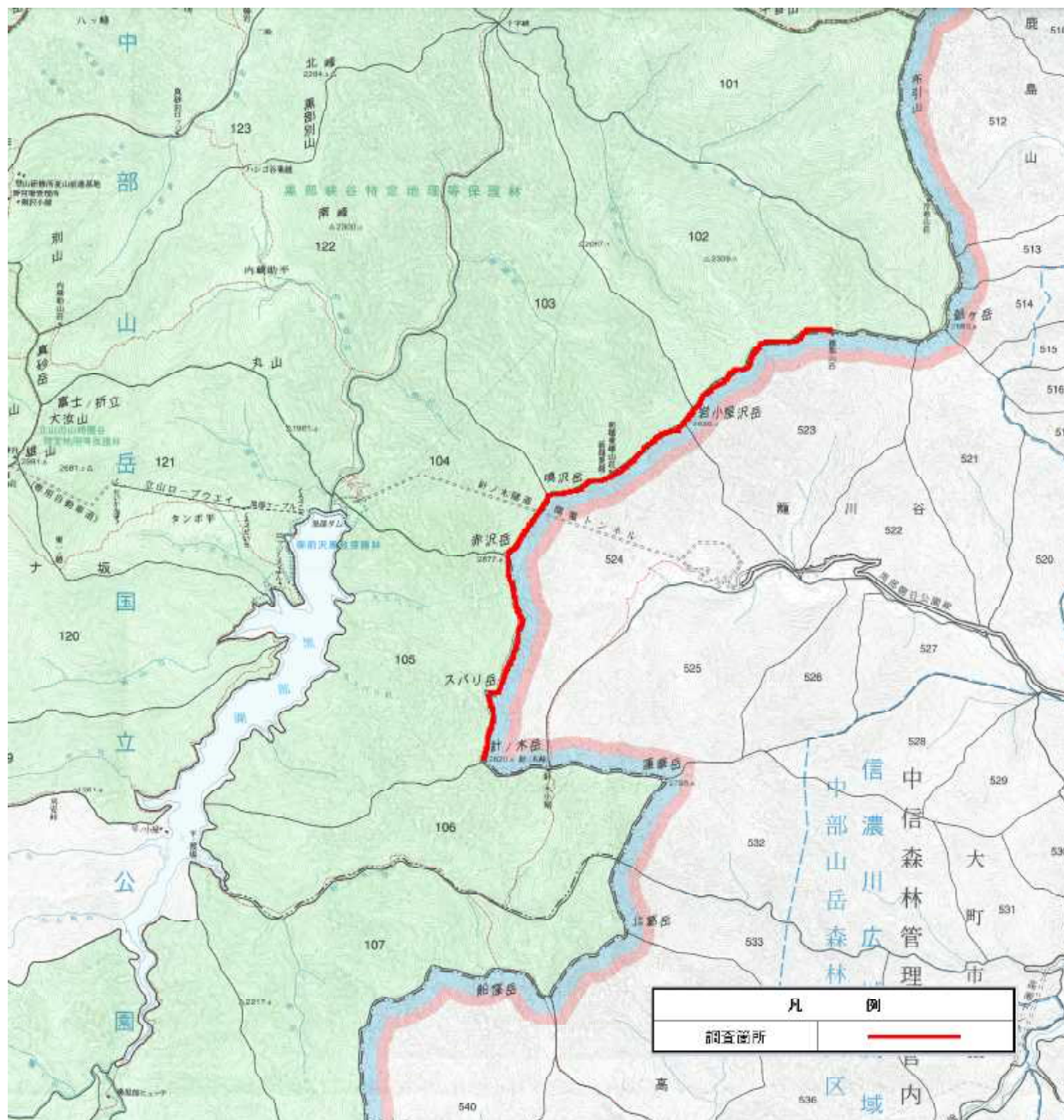
※右下太文字は「5分以内に連続撮影された場合は1カウント」とした場合の数

(表 I - 4)

3. 被害状況調査

(1)調査箇所

昨年度、自動撮影カメラでニホンジカが確認された付近のブナ坂国有林102林班の種池小屋から、106林班の針ノ木小屋までの登山道、約8,600m間を調査した。(図Ⅱ-1)



調査位置図 (図Ⅱ-1)

(2)調査方法

登山道沿いを中心に踏査し、食害や踏み荒らし等の被害を目視で調査した。

(9月3日、職員2名により実施)

(3)調査結果

調査の結果、剥皮等の森林被害や、高山植物の食害は確認されず、また、足跡や踏み荒らし等も確認されなかった。

しかしながら、新越乗越山荘周辺と鳴沢岳周辺において食痕が確認された。これらの食痕は、摘み取られたような繊維が残っており、高さ1 m以上の箇所の枝葉もあることから、ニホンジカの可能性が高いと思われる。(写真Ⅱ-1～4)



繊維が残った枝葉の食痕 (写真Ⅱ-1)



繊維が残った枝葉の食痕 (写真Ⅱ-2)



千切られたような葉の食痕 (写真Ⅱ-3)



千切られたような葉の食痕 (写真Ⅱ-4)

4. まとめと考察

今回の自動撮影調査においては、これまで目撃情報がなかった稜線部の赤木岳付近において確認された。また、被害状況調査においては、森林被害はなかったものの一部でニホンジカと思われる食痕が確認された。

(1)自動撮影調査

①稜線部におけるニホンジカの確認

赤木岳付近で1頭のオスジカが確認された。薬師岳方面での目撃情報がないことから、岐阜県側からの進入と推測される。

②その他の野生動物の確認

キツネの撮影が最も多く、次いでノウサギ・テン・ツキノワグマが撮影された。昨年度、後立山で最も多かったニホンザルは確認されなかった。

(2)自動撮影カメラの設置

高山帯の稜線という環境の厳しい場所で、昨年度と同じ方法で設置したが、落雷等の自然によるカメラへの影響はなかった。しかし、2台のカメラにレンズ内部の結露による不具合と、もう1台のカメラには、杭との結束部分が破断する不具合があった。

(3)被害状況調査

森林及び高山植物への被害は確認されなかった。この付近においては、他の機関の調査においてもニホンジカが確認がされており、食痕や高さからしてニホンジカによる可能性が高いものと思われる。

(4)今後の調査について

今後についても、ニホンジカが確認されていない稜線部における自動撮影カメラによる調査及び、今回ニホンジカが確認された箇所周辺の被害状況調査を検討して参りたい。

最後に、今回の調査にご協力をいただいた山小屋関係者の方々に感謝申し上げます。